

第2章 母親の就業における世代間連鎖

1 はじめに

日本では出産・育児を理由に仕事を辞める女性が、未だ少なくない。総務省の労働力調査によると、出産子育て期と見られる30～39歳の女性の労働力率は、平成25年度において約70%である。平成15年度の60%台に比べれば改善されてはいるが、なおドイツ（約80%）、フランス（約85%）、スウェーデン（約90%）等諸外国と比較して、決して高いとはいえない。また、この数値の上昇は、子育て期の母親の就業が促されたのではなく、単に結婚子育て年齢にバラつきが出た結果、一定の年齢層に労働力率の低下が集中しなかったに過ぎないという考えもある（川口 2008）。女性を配偶関係別に集計しなおした労働力率においては、有配偶女性25～29歳、30～34歳でいずれも59.2%であり（独身女性はそれぞれ91.9%、90.1%）、結婚・子育て期の女性の離職は、依然として日本の労働市場における重要な課題のひとつである（内閣府 2015a）。

この状況に決して政府も無関心ではない。2012年に子ども・子育て支援法が可決・成立する以前にも、待機児童ゼロ作戦などで様々な子育て支援政策が打ち出されてきた。しかし、これら子育て支援策が、そもそも利用されていないケースがあるのではないかという指摘もある。支援策が利用されていない原因の1つとして、支援策へのアクセスの悪さが考えられる。（独）労働政策研究・研修機構が実施した「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」（以下 JILPT 調査）2014年度調査によると、第一子の妊娠判明後有業にもかかわらず、出産後に育児休業などを利用せずに無職となった母親は全体の43.1%を占め、逆に育児休業を利用して、就業継続した母親は全体の16.9%に過ぎない。例えば、「審査基準が厳しいため申請しても無駄」「保育時間が合わなかった」など、支援策の使いにくさが「認可保育所に申し込まなかった理由」の8.1%を占めている。

一方、第一子妊娠から出産3年後までの間に「仕事を辞めた」母親にその理由を聞いたところ、「子育てに専念したかった」と答えた母親（48.9%）が「両立困難」と答えた母親（49.0%）に次いで多かった。この離職理由は、第一子出産3年後までの間だけでなく、あらゆる時期にみられた。例えば、直近の仕事の離職理由として、「子育てに専念したかった」と答えた割合は18.6%、現在無職の理由として二人親世代の母親の54.9%が「子育てに専念したい」と答えており、子育てには万全を期さなければならないと考える母親の存在がみてとれる。

そこで本稿では、このような価値観のルーツの1つとして、現在子育て中の母親が子どもの頃の母親、つまり祖母の就業状況を想定した⁸。出産子育て期の母親の就業行動に、祖母（母親の母親）がかつて子育てをしていた時の就業状況がどのような影響を及ぼしているかを分析、検討するというものである。

⁸ 本稿での「祖母」は、調査対象者である母親の子どもから見た祖母、つまり「母親の母親」（一世代前の母親）である。

分析にあたり、(独) 労働政策研究・研修機構が実施した「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」の2012年及び2014年調査のデータをプールして用いることにした。

まず、データより日本における正規、非正規就業の賃金格差および、子育て中の母親の子育て支援制度の利用状況について述べ、正規、非正規の賃金格差が大きいにもかかわらず依然として制度利用を選ばず、「子育てに専念する」という理由で離職、後に非正規就業となる母親が非常に多く存在することを示す。次に、祖母の就業状況が与える、母親自身が実際選択してきたライフコース、そして第一子出産1年後、3年後の就業状況への影響を分析する。具体的には、母親が3歳、6歳、12歳時点での祖母の就業状況が与える影響を分析対象とする。さらに性別役割分業意識に与える祖母の就業状況の影響も分析する。

その結果、祖母と母親の就業状況の間に世代間連鎖ともいえる影響が見られた。まず、母親自身が調査時点までに歩んだライフコースでは、祖母の過去の就業状況、特に6歳、12歳時点で祖母がフルタイム就業であった場合および、3歳、6歳、12歳時点で一貫して無職、または正規就業であった場合に影響が見られた。祖母がフルタイムなら母親の就業継続にはプラスの影響、専業主婦ならマイナスの影響を与えるという結果であった。一方、男女性別役割分業意識においては、母親自身の収入を含む現在の経済状況で制御したところ、12歳時点で無職、そして一貫して無職であった祖母をもつ母親は、男女性別役割分業意識に対し肯定的な意識をもっていることが分かった。

次に、出産、子育てを初めて行うと考えられる、第一子出産1年後の母親の就業における祖母の影響は、母親が3歳および6歳だった頃に祖母が無職であった場合、そして、3歳時点で一貫して無職、および一貫してフルタイム就業の場合に見られた。一方、第一子出産3年後の母親の働き方に祖母が与える影響は限定的で、3歳、6歳で無業の場合のみであった。これらの影響は全て、子どもの頃の祖母の就業形態を踏襲する形であった。つまり、祖母が働いていたら逆に無職を好むといった反面教師的ではなく、祖母がフルタイムなら母親の就業継続にはプラス、祖母が専業主婦ならマイナスの影響を与えるという結果であった。

2 背景

(1) 子育て中の母親の状況 (JILPT 調査より) : 就業形態と賃金

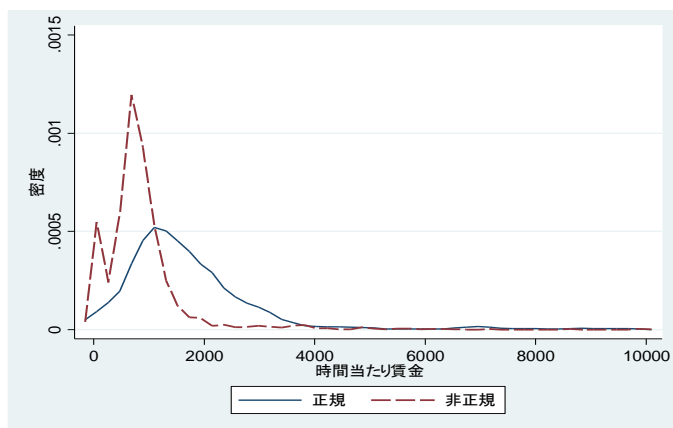
現在の日本では、女性においても初職が正規就業である割合が比較的高いにもかかわらず、出産などのライフイベントを経る中で、非正規就業になる確率が高い。国民生活基礎調査によると、女性の年齢階級別にみた就業状況は、15～19歳から35～39歳においては正規就業割合が高いが、35～39歳を境に一転して非正規就業割合が高くなる(厚生労働省 2015)。ここから示唆されることは、初職が正規雇用であるにもかかわらず、子育て期などライフイベントを経ることで非正規となる割合が非常に高いということである。その結果、大きな賃金

格差に直面することは調査の結果により明らかである。就業継続している正規社員とそうでない非正規社員との間で賃金格差が大きく、それが生涯賃金にも大きく影響していることも分かっている。このような状況を JILPT 調査の結果によって改めて確認する。

JILPT2014 年調査によると、初めて就いた仕事が正規社員だった者の割合は 69.4%だが、現在正社員の割合は 36.0%と非常に低くなっている。これは過去 2 回の調査においても同様の傾向がみられる（2011 年調査：初職正社員 78.4% 現在正社員 36.1%、2012 年調査：初職正社員 75.0% 現在正社員 35.3%）。また、賃金の違いについては、図表 2-1 と図表 2-2 のとおりである。図表 2-1 は、正規・非正規別に賃金の分布をカーネル密度関数で表したものである。非正規雇用の賃金が左側に集まっている一方で、正社員の賃金分布は、比較的分布に幅があることが分かる。ここから、非正規社員の賃金は年齢、学歴などに関係なく、全体的に低く抑えられ、正社員の賃金にはある種のバリエーションがあることが分かる。図表 2-2 は現在の就業形態別にそれぞれの時給の平均を算出したものである。この集計によると、現在正規で働いている母親の時給が約 1,554 円であるが、現在非正規の母親の時給は 853 円に過ぎず、その差は約 1.8 倍である。さらに学卒後、一社で継続的に就業している母親の時給は 2,059 円で、現在非正規の母親の約 2.4 倍にのぼる。

このことから、少なくとも現在の日本の状況下では、正規雇用をいかに継続するか、特に初職の正規雇用を、数々のライフイベントを乗り越え、いかに継続するかが後の所得格差において重要になってくることが分かる。

図表 2-1 正規、非正規別賃金(時給)の分布



図表 2-2 雇用形態別時間あたり賃金の平均と中央値(円)

	観測数	平均	中央値
現在正規	693	1,554.25	1,282.05
現在非正規	1,365	853.42	747.86
その他	248	1,121.69	657.05
無職	1,048	.	.
一社継続正規	293	2,058.78	1,923.08
全体	2,599	1,201.78	927.20

出所：(独)労働政策研究・研修機構が実施した「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」2014 年度調査より著者集計。

*集計にあたり、本人の税込み年収を、週あたり平均労働時間を 52 倍したもので除して用いた。

(2) 子育て中の母親の状況（JILPT 調査より）：子育て支援制度の利用状況

このような所得格差が見られるにもかかわらず、子育て支援制度を利用することなく「子育てに専念したい」との理由で母親が離職する傾向は根強い。

2006（平成 18）年国民生活白書によると、当時、子育て専念を理由とする離職者は 53.6%であった。その後、2009 年に発表された厚生労働省の「子育て期の男女への仕事と子育ての両立に関するアンケート調査」においても、「家事・育児専念を理由とする自発的な離職」が正社員で 39.2%、非正規で 42.5%と、いずれも離職理由のトップである。直近の 2014 年 JILPT 調査においても同様で、第一子の妊娠・出産前後に離職した理由の中で、「子育てに専念しなかった」と答える母親の割合（47.0%）、さらには現在無職である理由として「子育てに専念したい」と答えたふたり親世帯の母親の割合（54.9%）が最も高い（JILPT 2015）。これらの結果をみても、子育てに専念するため実際に離職している母親が約半数にのぼり、また、過去の傾向と合わせても、子育てはある種万全を期すものとする傾向が根強いことがわかる。

次に支援制度の利用状況において 2014 年 JILPT 調査を見ることにする。育児休業制度を含む、支援制度の利用状況についてそれぞれ、「今利用している」「過去に利用したことがある」「利用経験はないが、今後利用したい」「利用経験はなく、今後も利用するつもりがない」「制度を知らない」の選択肢を設け、そのうち、回答者数から「制度を知らない」と答えたサンプルを除外し、「利用経験はなく、今後も利用するつもりがない」ものの割合を算出したものが、図表 2-3 である。その結果、制度を知っているにもかかわらず、過去に利用経験がないだけでなく、今後も利用の意思がないと答えた割合が、「育児休業制度」における 66.5%を含むほぼ全ての支援制度において、6 割から 9 割近くに上っている（図表 2-3）。

同時に、その結果、再就職をする際に非正規就業になってしまうこと、その選択は賃金面で不利になるといった現状も改めて確認された（図表 2-2）。

図表 2-3 支援制度の「利用経験がなく、今後も利用するつもりがない」と回答した割合

各種支援制度	観測数	制度を知らない	今後も利用しない	割合
育児休業制度	1,995	214	1,184	66.5%
子の看護休暇制度	1,971	739	775	62.9%
短時間労働制度	1,971	630	889	66.3%
学童保育	2,029	111	847	44.2%
自治体の産前・産後ヘルパー事業	1,965	769	1,059	88.5%
マザーズハローワーク	1,982	837	757	66.1%

出所：(独)労働政策研究・研修機構が実施した「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」2014 年度調査より集計。

3 先行研究と本稿の特徴

親の世代の働き方がその子どもに与える影響については、海外、特にアメリカで蓄積がある（牧野 1989）。かつては、母の就労における子どもの態度や学業成績への影響に関心が高かったが、近年はライフコースの世代間連鎖にも関心がよせられている。例えば Antel (1992) では、福祉システムを利用した母親の娘が、大人になって実際に福祉システムを利用したか否かを調べている。福祉システムを利用した母親の娘が福祉システム利用する確率は、そうでない母親の娘と比べて有意に高い。ここからライフスタイルの世代間連鎖がうかがえる。また、母と息子の関係については、Fernández, Fogli and Olivetti (2004) で、就業している母を持つ息子は、働く女性を妻にする確率が高いとの結果がでている。これ以外にも、Morrill and Morrill (2013) では、母と娘の間で、労働力参加及び就業形態に世代間連鎖が見られるだけでなく、特に就業形態の世代間連鎖においては、妻と夫の母親との間により強い相関が見出されたとの結果もあった。また、性別役割分業意識の世代間連鎖においては、宗教観の世代間連鎖と比較して強くはないが、親子関係の強さでその効果の弱まりにラグが生じるといった結果もでている（Min, Silverstein and Lendon 2012）。

一方、父親の就労と息子の関係に目をむけると、Dunn and Holtz-Eakin (1996) や Corak and Piraino (2011) から、父親の就業が息子の就業に影響を与えているが、その効果は、親の持つ資本、特に人的資本を受け継ぐという形であるとの結果が得られている。

日本においては、母と、特に娘との関係に焦点をあてる研究が多くみられた。

就業の世代間連鎖については、「職業観」と「実際の就労状況」に大別される。中でも、親の就業状況が子ども世代の職業観、希望するライフコースに与える影響に比較的多くの関心が向けられてきた。母親の就業は、娘の世代の将来の職業観、性別役割分業意識にプラスの影響を与えているという結論が多く見られる（村松 1994、藤原 1981、水谷 2015、副田・柏木 1980、田澤 2010）。長尾（2008）は、女子高生を対象としたパネル調査により、本人のキャリア観と母親の実際の就労状況との関連性を分析している。その結果、調査当初、性別役割分業意識を持っていた女子高生も、親世代の就業状況に影響を受け、意識を変化させていく可能性を指摘している。

一方、娘の職業観に与える母の影響は、母親自身の実際の就業だけでなく、娘に期待する職業観もまた強い影響を及ぼすという研究結果も得られている。村松（1994）は、女子学生のライフコース観は、母親の実際のライフコースではなく、期待されるライフコースに関連しているとの結論付けており、中村（2013a）による分析結果からも同様な結論を得ている。

しかしその一方で、娘たちが実際に就業選択するにあたっての母親の影響は様々である。宗倉・石川（1991）によると、娘の選択した就業形態を、家事専業、パート、フルタイムと分類し、母親の就業形態別に3グループ間を比較したところ、グループ間で有意な差が見られず、たとえ親がフルタイム就業していても、娘の選択は様々であった。また、中村（2013a）は、首都圏の四年制大学卒の女性を調査対象とし、実際の職業キャリア、結婚・出産後の就

業形態について分析を試みている。それによると、クロス集計の結果では、母親ライフコースと娘のライフコースに関連性がみられるものの、ロジスティック分析をすると、その効果は消失する。さらに、「職業系女子大学」と「教養系女子大学」の中間的特徴をもつ「中間的女子大学」の学生は、実際のキャリアコースとして「退職型」の確率が高い。一方、Tanaka (2008) によると、母親がフルタイム就業の場合、娘もフルタイムになる影響をもつとの結果を得ている。また、夫の母がフルタイム就業の時、その妻もまたフルタイム就業である確率が高い (Kawaguchi and Miyazaki 2007)。これはさきの Morrill and Morrill (2013) と同様の結果となっている。労働時間について分析した水谷 (2015) によると、調査対象者が子どもの頃在住していた都道府県の女性有業率と母親の就業期間は、調査対象女性の労働時間に正の影響を与えているとの結論を得ている。

一方、息子に与える影響は、母と娘の関係とは少し異なる (三輪 2010)。例えば、学歴においては、母親がフルタイム就業の場合、息子の最終学歴にのみ、マイナスの影響がみられる (Tanaka2008)。就業における父から息子への影響は、農業や自営業など「資本の相続が起きる傾向」により、「移動機会が閉じられる」(三輪 2010)。これは先述の Dunn and Holtz-Eakin (1996) や Corak and Piraino (2011) に整合的であった。

このように、女性の職業「観」についていうと、親世代の影響を受けているようである。一方「実際」の就業への影響の有無となると、親世代からの影響をうけているか否かは結論が分かれるところである。その一方で、娘のライフコースへの影響だけでなく、息子の母と妻の間に影響がみられ、これらはいずれもプラスであった。

最後に、調査データおよび対象者について、図表 2-4、図表 2-5 を俯瞰してみる。すると国内の先行研究は、調査対象者が高校生、大学生のみであるものが多く、調査対象地域も限定されているものが多かった。海外の研究では、全国データを使用しているものの、研究関心である母親の就業がその娘の就業に与える影響について直接的に調べた分析を見つけないことができなかった。また、国内で全国データを使用した先行研究においては、子どもの年齢が比較的高い、15歳時点での母親の就業形態との関係に注目していた。

図表2-4 先行研究一覧1

先行研究	就業観/実際の就業/他	調査年	調査対象者・サンプルサイズ	分析手法	結論
副田・柏木 (1980)	母親の就業時期と娘の就業意識	1978年10月	都内女子大学卒業生 平均年齢23.9歳から57.4歳まで 800名	集計 クロス集計	幼少年期に母親が職業を持っていたことは、女子大生の職業志向を高める効果がある 4大生女子の母親が継続就業、(中3以降での就業)だと、その半数以上が結婚後も継続就業を希望する 専業主婦だと25%になる 母親の就業形態と娘の希望就業形態は関係がない 理想のライフコース観形成には母親の実際の就業状況がかわる ライフコース観は母親の実際のライフコースではなく、母親の期待するライフコースになる場合もある 母親が専業主婦や自営業の場合、他の就業形態と比べると性別役割分業への反対が少ない 母親が常勤の場合は、半数が仕事をしたいと思っている 両親共に仕事を重視しているだと本人が認知しているならば、大学卒業後に仕事を最も重視したいと考える 母親の実際のライフスタイルではなく「認知」が重要である 母親の言動が就業意識の向上の一因であると答えた女子高生が多い
高橋 (1986)	母親の就業と娘の就業意識	1984年10月	都内および近郊の四年制大学 男子500名 女子138名	クロス集計	
宗倉・石川 (1991)	母親の就業と娘の就業意識	1991年7月	短大専門学校の女子500名 女子大家政科1年95名	クロス集計	
村松 (1994)	父母の期待、母親の実際と本人の理想	1992年10月	神奈川県的女子大生1,589名	クロス集計	
八重樫、奥山、林、本保、小河 (2001)	母親の就業、娘の就業意識と性別役割分業意識	2000年6月 2000年10月	岡山県内の女子大生 (1年生と3年生)492人	クロス集計	
田澤 (2010)	本人における親の生き方の認知と就業意識	2006年7月 2008年10月	関東近郊の私立大学生 文系(男子138名、女子18名)	アンケート集計	
永瀬 (2012)	母親と娘の就業意識	2010年1月	小学生の母親134名 高校生本人158名 高校生の母親161名	アンケート集計	
奥津 (2009)	母親の就業と本人再就職の動機	2007年、2008年	短大卒以上の20代から60歳前半 女性で現在就業中の22名	ヒヤリング調査	母親が共働きや自営業の夫を手伝う妻だった場合、子どもの頃から自分も子育てしながら働くことを当然と考える 専業主婦の母親に育てられた者は、主婦としての役割を果たす中で、生活をさらに充実させるために働く 母親のライフコースと娘のライフコースの関連性はない(ロジック) 「母から仕事を継続するように言われた」ことが、女性が結婚後も仕事をフルタイムで継続する要因である 「現在就業継続」している娘のは「就業継続」者が多い 「現在退職」している娘の母親は「その他、退職」の者が多い 「就業継続」を希望する娘の母親は「再就業」者が多い
中村 (2013a)	母親の就業と娘のライフコース	2008年3月	首都圏の4年生女子大7校、四大 共学10校出身の35~45歳の女性、1601人	クロス集計 ロジック回帰	
中村 (2013b)	現在の母親の就業と娘の実際の就業			クロス集計	
Morril and Morrill (2013)	母親と娘の労働力参加と就業形態及び夫の親と妻の労働力参加と就業形態	GSS:1975年~2008年 SIPP:1986~1998年	GSS FLDPMI SIPP	attractive-matching 他	母と娘の間に労働力参加におけるリンクがある 就業形態の相関は母親もあるが、むしろ妻と夫の母とで相関が強い
水谷 (2015)	居住地の女性就業率、母親の就業状況と娘の労働時間と性別役割分業意識	JPSC:1993年~2014年 就業行動基本調査	JPSC 以下の女性 1993年に24歳から34歳:1,500人 1997年に24歳から28歳:500人 2003年に24歳から29歳:836人 2008年24歳から28歳:636人 2013年に24歳から28歳:648人	クロス集計 OLS	性別役割分業意識は母親の就業が15年以上上なら39.5%が反対する 母親の就業期間と本人が子どもの頃の居住地の女性就業率は正の相関がある

図表2-5 先行研究一覽2

先行研究	就業観/実際の就業/他	調査年	調査対象者・サンプル数	分析手法	結論
藤原(1981)	母親の就業と本人の性別役割分業意識		広島県の3つの自治体にある4つ公立小学校2,3年生男女553名及び看護師の母を持つ児童(70名)、小学教師の母を持つ児童(28名)、中学生(38名)大学生(80名)など	クロス集計	非就労母親の子もはより早い段階で職業上の性別役割分業意識を強める一般雇用の母親を持つ娘は伝統的な職業の性別役割意識を強める教師を母親を持つ娘はその意識が弱い
牧野(1989)	母親の就業と本人の性別役割分業意識	2004年1月 2005年10月 2006年10月	4県171校の高校生 7,563名 → 667名 → 549名	日米文献サーベイ	母親の就業は、女兒の職業上の性別役割分業意識を強めるが、男児の職業上の性別役割の定型化を弱める 有職の母親を持つ女性ほど、女性の就労に対し肯定的である
長尾(2008)	母親の就業と本人の性別役割分業意識	1971年～2000年	L.S.G.:1971年～2000年の内、親子775組	クロス表による 時点間比較	母親の就業状態と性別役割分業意識の関係は、高校3年時、卒業2年目、卒業3年目いずれの時点でも有意ではない 性別分業意識を持っていた女性も母親の就業状況をロールモデルとし、意識を変化させていく可能性はある 宗教観と比較すると、性別役割分業意識は徐々に効果弱まってくるが、結びつきが強いとその効果にラグが生じる
Min, Silverstein and Lendon(2012)	宗教観と性別役割分業の世代間連鎖		NLS対象者の、1966年に14～24歳だった男性 1967年に30～44歳だった女性と45歳～59歳だった男性の内 親子と識別できるもの 妻がいる者	conventional logit	資本市場が起業にあたる影響は比較的小さく、母親の資本、特に人的資本の影響は大きい
Dunn and Holtz-Eakin(1996)	親の就業、資本と息子の起業	1966年～1982年	GSS(1988年及び1994年) FLFPMI(1980年) IPUMS(1940～1980年)	プロビット OLS	就労している母親を持つ息子は、働く女性を基に持つ確率が高い
Fernández,Fogli and Olivetti(2004)	母親の学歴、就業と息子の結婚相手の就業形態	2000年～2002年	JGSS(2000年～2002年をプール(内男性3,481名))	プロビット	息子の母親がフルタイム就業の場合、妻もフルタイム就業の確率が高い 息子の母親がフルタイム就業の場合、息子が性別役割分業に反対する確率が高い
Kawaguchi and Miyazaki(2009)	母親の就業形態と息子の妻の就業形態と性別役割分業意識	2002年、2003年、2005年	JGSS:2002年、2003年、2005年をプール、調査東燃の就労状況、家庭環境などで選別された男女6,096名	OLS 多項ロジット	母親がパート、自営の場合、息子の最終学歴にマイナスの影響がある 母親がフルタイム就業の場合、息子の最終学歴のみマイナスで、その娘はフルタイム就業になる影響をおよぼす
Tanaka(2008)	母親の就業形態と息子と娘の最終学歴および就業形態	1978年～1996年	Intergenerational Income Data (IID) 1963年以降に生まれた男性 71,215人の父-息子-娘の組み合わせ 日本全国の20歳から70歳までの男女	linear probability model	カナダ人の息子の40%は、その父が就労して働いていたところに一時期雇われている
Corak and Piraino(2011)	父親の就業と息子の雇用	1995年SSM調査 2005年SSM調査	5,357名(1995年)および5,742名(2005年)	オッズ比	資本の相続が起きる傾向があるため、移動機会が開けられる
三輪(2010)	ある階層出身者がどの程度移動機会に恵まれたか、(父親の職業との関連)	1985年、1986年、1987年	NLSY1979-1988の内、1979年に14歳から19歳だった女子2,430名	double tobit	社会保障を利用している母親の娘は、後に社会保障を利用する確率が上がる
Annel(1992)	福祉システムを利用した母親と娘の福祉利用確率	2006年	2006年度the German SOEPをPCで回答したものの内IQテストを受けたドイツ人5,321名	OLS 多項ロジット	個人の認知力は両親のそれとプラスの相関がある 両親の子どもにたいする学力への投資が重要である
Anger and Heineck(2010)	学力の世代間連鎖				

以上を踏まえ、本稿は以下のような特徴をもつ。

本稿で使用するデータは、子育て世帯の母親を対象とする全国調査である。また、子育て世帯の母親を調査対象としていることにより、本稿の関心である、出産子育てといった母親の就業に影響を及ぼすと考えられるライフイベントと、現在の就業状況、さらにはこれまでのライフコースが調査データに盛り込まれている。また、調査対象者である母親が、3歳、6歳、12歳だった時の祖母、つまり「母親の母親」の就業状況が質問項目から明らかになっているため、出産子育て期の母親の就業状況の変化が、母親が子どもの頃の祖母の就業状況からどのような影響を受けているかを分析することが可能である。

4 データについて

本分析では、(独)労働政策研究・研修機構が実施した「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」(以下 JILPT 調査)の第2回(2012年)及び第3回(2014年)調査で得られた個票データをプールして用いる。本調査は、住民基本台帳から層化二段無作為抽出法によって全国から標本を抽出、調査対象者は、調査時点において末子が18歳未満である、ふたり親またはひとり親それぞれ2,000世帯である。有効回収票は、ふたり親世帯1,219票(有効回答率61.0% 2012年)、1,221票(有効回答率61.1% 2014年)、ひとり親世帯982票(有効回答率49.1% 2012年)、976票(有効回答率48.8% 2014年)であった。本稿は、調査対象者の祖母の過去の就業状況が、調査対象者の就業状況に与える影響を分析するため、父子世帯、その他の世帯は除外している。さらに、JILPT 調査は、母子世帯をオーバーサンプリングしているため、推計にあたり、JILPT(2015)の図表1-1⁹を利用した復元倍率により重み付けを行っている。

この調査の結果の詳細については JILPT(2013) および JILPT(2015) を参照されたい。

本データの特徴は、現在子育てをしている調査対象者の現在の就業状況だけでなく、これまで選択してきたキャリアコース、さらには、第一子出産1年後、3年後の就業状況を丁寧に調査していることが挙げられる。さらに、現在子育て中の対象者が子どもの時、その母親(調査票の祖母にあたる人)がどのような就業状況にあったかが調査されていることから、就業状況の世代間連鎖についての分析が可能であることも大きな特徴である。

⁹ ウェイトの詳細は JILPT(2015) 6 ページを参照されたい。

5 分析について

(1) 推計モデル

今回の分析には、最も簡単な多項選択モデルである多項ロジットモデル¹⁰を使用する。選択肢が J 個、選択結果を y_i とする。

$$j = 1, 2, 3, \dots, J$$

この順序や差に意味がないと仮定する¹¹。

個人 i の属性は x_i 、選択肢 j を選ぶ確率 π_{ij} は以下の通りである。

$$P(y_i = j | x_i) = \pi_{ij} \quad (0 < \pi_{ij} < 1 \quad \sum \pi_{ij} = 1)$$

このような条件を満たす式は以下の通りである。

$$\pi_{ij} = \exp(x_i' \beta_j) / \sum \exp(x_i' \beta_j) \quad j = 1, \dots, J$$

次に $j=1$ を基準とし、式を簡単化すると、以下のように多項ロジットモデルとして定式化できる。

$$\begin{aligned} \pi_{i1} &= 1 / \{1 + \sum \exp(x_i' (\beta_r - \beta_1))\} & j=1 \\ \pi_{ij} &= \exp(x_i' (\beta_j - \beta_1)) / \{1 + \sum \exp(x_i' (\beta_r - \beta_1))\} & j = 2, \dots, J \end{aligned}$$

多項選択確率関数は以下である。

$$f(y_i | x_i; \beta_2, \dots, \beta_J) = (\pi_{i1})^{d_{i1}} (\pi_{i2})^{d_{i2}} \cdots (\pi_{iJ})^{d_{iJ}} = \prod (\pi_{ij})^{d_{ij}}$$

ここで

$$d_{ij} = \begin{cases} 1 & \text{選択肢 } j \text{ が選ばれた場合 } (y_i = j) \\ 0 & \text{それ以外} \end{cases}$$

n 人の個人に対する尤度関数は以下の通りである。

$$\log L(\beta_2, \dots, \beta_J; y, x) = \sum \sum d_{ij} \log \pi_{ij}$$

この式について最尤法を用い推計を行う。

(2) 変数

次に、注目すべき主な変数について以下に定義を述べる。

¹⁰ 表記は Winkelmann and Boes (2006) にもとづく。

¹¹ 本稿においては、ハウスマン検定を用いてモデルの妥当性を検討した。結果、多項ロジットモデルが採択された。

①母親の就業状況、意識を表す変数 (j)

本稿では、母親の就業状況を表す変数として以下のものを用いている。

キャリアコース：

「1. 学校卒業後に就いた仕事でずっと働き続けてきた」「2. 転職経験はあるが、学校卒業後は働き続けた」を「継続就業」、「3. 出産や育児などで退職したものの、再就職して現在働き続けている」を「退職復帰」、そして、「4. 退職して現在は無職だが、今後働く予定がある」「5. 退職しており、今後も働く予定がない」を「現在無職」と定義した。

男女性別役割分業：

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に「賛成」「まあ賛成」を「賛成」、「やや反対」「反対」をそれぞれ「反対」と定義した。

第一子出産1年後の就業状況：

第一子出産1年後の就業状況として、「無職」、次に「正社員・正規職員」を「正規」、「嘱託・契約・派遣社員」「パート」を「非正規」、「育児休業中」を「育休取得」、「自営業・内職」「その他」を「その他」と定義した。さらに、出産1年後に「無職」なら0、無職以外（正規、非正規、その他を問わず、何らかの形で就業に関わっているもの）を1として、就業有無ダミーとして限界値の推計を行った。

第一子出産3年後の就業状況

調査票の選択肢が出産1年後と同一であるため、定義そのものは出産1年後の就業状況と変わらない。しかし、分析にあたっては、サンプルを出産1年後に無職だったものに限定した。

②親世代（祖母）の就業状況を表す変数 (x_{1i})

祖母の就業状況において、調査対象者である母親が「3歳だった頃」（3歳時点）、「6歳だった頃」（6歳時点）、「12歳だった頃」（12歳時点）についての項目を使用、さらに、「3歳、6歳、12歳全ての時点において無職」、または「3時点全てにおいてフルタイム就業」をこの項目により定義した。

③そのほかの変数 (x_{2i})

上記以外の説明変数として、年齢、最終学歴、既婚か否か、子どもの数、末子年齢、同居・近居の状況、本人年収、夫年収、夫学歴、持ち家、住宅ローン、初職正社員、初職大企業勤務、初職官庁勤務、さらに、男女雇用機会均等法施行後に就職、育児休業義務化以降出産を用いた。

また、母親自身が子どもの頃の家庭環境の代理変数として、父親（祖父）の学歴、兄弟の

数、第一子か否か、虐待経験を用いた。

6 推計結果

(1) 職業キャリアコース選択

ここではまず、母親のこれまでの職業キャリアコース選択（継続就業型、退職復帰型、現在無職型）に、母親が子どもの頃の祖母の働き方が与える影響を多項ロジットモデルで推計し、その結果を図表2-6に示している。各モデルはそれぞれ、「母親が3歳の時の祖母の就業状況」（モデル1）、「母親が6歳の時の祖母の就業状況」（モデル2）、「母親が12歳の時の祖母の就業状況」（モデル3）、「母親が3歳、6歳、12歳、全ての時点で祖母が無職」（モデル4）、そして「母親が3歳、6歳、12歳、全ての時点で祖母がフルタイム就業」（モデル5）が母親の職業キャリアコースに与える影響を示している。ここでは、母親が子どもだった時の祖母の働き方が、母親の職業キャリアコースに何らかの影響を与えていると仮定しているものの、具体的に母親が何歳の時の祖母のどのような働き方が、どの職業キャリアコースに影響を与えているのかは定かではない。そのため、職業キャリアコースの3つの選択肢と、母親が子どもの時のそれぞれの年齢別のモデルを推計することにした。

その結果、母親が3歳だった時の祖母の就業状況は、母親の後のキャリア選択に影響をあたえていないことが示された（モデル1）。しかし、母親が6歳時点で祖母がフルタイム就業であった場合は（モデル2）、結婚、出産前後に就業を継続している母親に比べ、現在就業を中断している確率はいずれもマイナスであった（ $p<0.01$ ）。さらに、母親が12歳だった時に祖母がフルタイム就業だった場合（モデル3）、継続就業型に比べ、退職復帰型、現在無職型のどちらもマイナスの影響を与えていた（ $p<0.05$ ）。母親が3歳、6歳、12歳の全ての時点で祖母が無職であった場合（モデル4）、無職を選ぶ確率が高い（ $p<0.01$ ）。また、母親が3歳、6歳、12歳のそれぞれの時点で祖母がフルタイム就業だった場合、退職復帰型、現在無職型を選ぶ確率が下がる（それぞれ $p<0.05$ 、 $p<0.01$ ）、つまり就業継続型を選ぶ確率が高かった（モデル5）。

このように、祖母が無職なら母親が現在無職型である確率を有意に引き上げ、フルタイムなら、継続就業型である確率を引き上げるという結果がみられた。

その他の主だった変数は、モデル1からモデル5でほぼ共通した結果であった。まず、夫と婚姻を継続している母親は、継続就業型と現在無職型との間で差はないが、退職復帰型にマイナスの影響を与えていた（ $p<0.01$ ）。次に、子どもの数が多いと、退職復帰型である確率が高かった（ $p<0.01$ ）。祖父母と同居または近居している場合は、現在無職型よりも就業継続型である確率が高く（ $p<0.05$ ）、年収に関しては当然ながら、退職復帰型、現在無職型いずれもマイナスであった。母親の職場に関しては、初職が大企業勤務か否かはキャリアコース選択に特に影響を及ぼさないが、官庁に勤めている母親は、継続就業型である確率が他と比較して有意に高い。また育児休業義務化以降に出産した場合は、復帰型である確率が有

意に高かった。

図表2-6 推計結果1:キャリアコース選択(多項ロジット)

base:継続就業	モデル1		モデル2		モデル3		モデル4		モデル5	
	退職復帰	現在無職	退職復帰	現在無職	退職復帰	現在無職	退職復帰	現在無職	退職復帰	現在無職
現在の状況										
年齢	0.0339 (0.109)	-0.0919 (0.135)	0.0451 (0.104)	-0.0361 (0.129)	0.0386 (0.104)	-0.0645 (0.130)	-0.00270 (0.0998)	-0.0741 (0.125)	-0.00234 (0.0995)	-0.0622 (0.126)
年齢二乗項	-0.00105 (0.00143)	0.000656 (0.00181)	-0.00115 (0.00137)	8.39e-05 (0.00174)	-0.00109 (0.00136)	0.000329 (0.00174)	-0.000648 (0.00131)	0.000436 (0.00168)	-0.000633 (0.00131)	0.000314 (0.00170)
学歴:高卒	-0.529 (0.372)	-0.690 (0.484)	-0.495 (0.347)	-0.647 (0.454)	-0.526 (0.346)	-0.488 (0.461)	-0.358 (0.324)	-0.424 (0.431)	-0.393 (0.330)	-0.502 (0.435)
:専修/各種学校卒	-0.343 (0.391)	-0.441 (0.521)	-0.339 (0.366)	-0.373 (0.491)	-0.377 (0.365)	-0.239 (0.499)	-0.170 (0.344)	-0.146 (0.468)	-0.197 (0.350)	-0.202 (0.473)
:短大/高専卒	-0.600 (0.381)	-0.863* (0.503)	-0.577 (0.356)	-0.772 (0.478)	-0.594* (0.355)	-0.617 (0.485)	-0.442 (0.334)	-0.609 (0.456)	-0.453 (0.339)	-0.634 (0.459)
:四大卒以上	-0.596 (0.402)	-0.166 (0.519)	-0.521 (0.378)	-0.0487 (0.497)	-0.566 (0.376)	0.0608 (0.500)	-0.401 (0.356)	0.0627 (0.474)	-0.404 (0.361)	0.0676 (0.477)
既婚	-0.515*** (0.174)	-0.371 (0.280)	-0.534*** (0.174)	-0.362 (0.281)	-0.587*** (0.172)	-0.413 (0.279)	-0.557*** (0.170)	-0.380 (0.273)	-0.556*** (0.171)	-0.374 (0.276)
子どもの数	0.270*** (0.0835)	0.152 (0.117)	0.297*** (0.0813)	0.164 (0.115)	0.310*** (0.0809)	0.210* (0.115)	0.307*** (0.0795)	0.185** (0.113)	0.305*** (0.0794)	0.175 (0.113)
末子年齢	0.179*** (0.0178)	0.101*** (0.0296)	0.179*** (0.0174)	0.102*** (0.0287)	0.180*** (0.0172)	0.111*** (0.0286)	0.182*** (0.0169)	0.108*** (0.0279)	0.182*** (0.0170)	0.106*** (0.0281)
親:同/近居	-0.213* (0.124)	-0.471*** (0.182)	-0.194 (0.120)	-0.435** (0.178)	-0.179 (0.119)	-0.422** (0.177)	-0.140 (0.117)	-0.383** (0.173)	-0.132 (0.117)	-0.367** (0.173)
本人年収	-0.00269*** (0.000363)	-0.0253*** (0.00388)	-0.00270*** (0.000360)	-0.0252*** (0.00373)	-0.00270*** (0.000357)	-0.0256*** (0.00383)	-0.00267*** (0.000350)	-0.0255*** (0.00369)	-0.00268*** (0.000348)	-0.0255*** (0.00368)
夫年収	0.000518** (0.000242)	0.000866*** (0.000301)	0.000435* (0.000250)	0.000703** (0.000325)	0.000451* (0.000254)	0.000663** (0.000314)	0.000459* (0.000250)	0.000751** (0.000317)	0.000462* (0.000250)	0.000751** (0.000322)
持ち家	0.185 (0.161)	0.0467 (0.236)	0.148 (0.156)	-0.0481 (0.229)	0.111 (0.155)	-0.110 (0.229)	0.0754 (0.153)	-0.0755 (0.224)	0.0990 (0.153)	-0.0329 (0.223)
住宅ローン	-7.35e-06 (0.133)	-0.346 (0.221)	0.0769 (0.129)	-0.272 (0.212)	0.102 (0.128)	-0.165 (0.213)	0.146 (0.126)	-0.189 (0.206)	0.121 (0.127)	-0.239 (0.206)
初職正社員	-0.238 (0.164)	-0.180 (0.216)	-0.226 (0.161)	-0.252 (0.208)	-0.222 (0.159)	-0.204 (0.209)	-0.217 (0.156)	-0.220 (0.203)	-0.210 (0.156)	-0.230 (0.204)
均等法以降就職	0.179 (0.237)	-0.285 (0.364)	0.137 (0.230)	-0.274 (0.355)	0.117 (0.226)	-0.310 (0.353)	0.101 (0.221)	-0.253 (0.348)	0.0954 (0.221)	-0.280 (0.348)
育休義務化以降出産	0.324 (0.200)	0.230 (0.342)	0.379** (0.193)	0.365 (0.335)	0.358* (0.192)	0.402 (0.334)	0.341* (0.189)	0.301 (0.327)	0.336* (0.189)	0.264 (0.326)
大企業	-0.0901 (0.123)	-0.250 (0.188)	-0.0816 (0.122)	-0.234 (0.187)	-0.0548 (0.120)	-0.290 (0.186)	-0.0666 (0.119)	-0.268 (0.182)	-0.0629 (0.118)	-0.242 (0.181)
官庁	-0.957*** (0.349)	-1.415** (0.717)	-0.784** (0.350)	-1.074 (0.738)	-0.782** (0.354)	-1.218 (0.773)	-0.786** (0.347)	-1.245* (0.740)	-0.803** (0.350)	-1.346* (0.724)
母親の年齢と祖母の就業状況										
3歳時点:祖母無職	0.0775 (0.182)	0.296 (0.258)								
3歳時点:祖母フルタイム	-0.258 (0.195)	-0.326 (0.286)								
6歳時点:祖母無職			0.0389 (0.148)	-0.115 (0.207)						
6歳時点:祖母フルタイム			-0.229 (0.151)	-0.615*** (0.228)						
12歳時点:祖母無職					0.00673 (0.145)	0.195 (0.202)				
12歳時点:祖母フルタイム					-0.269** (0.128)	-0.408** (0.192)				
3時点:祖母無職							0.215 (0.131)	0.405** (0.185)		
3時点:祖母フルタイム									-0.298** (0.126)	-0.559*** (0.192)
定数項	-1.068 (1.979)	3.240 (2.445)	-1.322 (1.895)	2.195 (2.345)	-1.062 (1.871)	2.486 (2.337)	-0.572 (1.799)	2.499 (2.253)	-0.486 (1.795)	2.510 (2.282)
観測数	2,278	2,278	2,367	2,367	2,414	2,414	2,488	2,488	2,488	2,488

***p<0.01,**p<0.05,*p<0.1 括弧内は標準誤差。有意な値が出た項目に網掛けがしてある。

出所:(独)労働政策研究・研修機構が実施した「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」2012年度調査および2014年度調査を用い著者推計。

今後明記がない場合、上記は全て同様である。

*モデルの選定にあたりハウスマン検定をおこなった。結果いずれのモデルも多項ロジットが採択された。

*女性の過去の状況を表す変数として、父親の学歴、兄弟の数、長子か否か、虐待経験を制御した(結果は割愛)。

(2) 母親の継続就業に祖母が与える影響

先ほどの推計により、母親が子どもだった頃の祖母の就業状況が、現在の母親のキャリアコース選択に影響を与えていることが分かった。そこで、転職等の有無にかかわらず一貫して就業を継続している母親に注目する。母親が子どもの頃の祖母の就業状況が、どの程度影響を与えているかを見るために限界値を推計し、図表2-7に示した。推計にあたり、母親の現在の状況（年齢、学歴、婚姻状況、子どもの数、末子年齢、親との同居・近居の状況、年収、持ち家など）、初職の状況（正規就業、均等法以降の就職、育児休業義務化以降の出産、大企業、官庁）、過去の状況（祖父（母親の父親）の学歴、兄弟数、虐待経験など）をコントロールしている。

推計の結果、母親が3歳の時の祖母の就業状況は、母親の就業継続に影響を与えなかったが、6歳、12歳の時にフルタイム就業であった場合、母親が就業継続を選ぶ確率がそれぞれ6.8%、5.4%上昇した。また、一貫して無職の祖母を持った場合、母親が就業継続を選ぶ確率を5.5%引き下げ、祖母が全ての時点でフルタイム就業の場合、母親が継続して就業する確率を6.9%引き上げる効果があった。

図表2-7 祖母の就業状況と母親の継続就業

母親の年齢と祖母の就業	dy/dx	Std. Err.	z	P> z
3歳時：無職	-0.025	0.035	-0.720	0.474
3歳時：フルタイム	0.055	0.037	1.490	0.138
6歳時：無職	0.007	0.028	0.250	0.804
6歳時：フルタイム	0.068	0.029	2.350	0.019
12歳時：無職	-0.017	0.027	-0.620	0.536
12歳時：フルタイム	0.054	0.025	2.190	0.028
一貫して無職	-0.055	0.025	-2.180	0.029
一貫してフルタイム	0.069	0.024	2.890	0.004

*制御変数の詳細は付表2-1を参照。

*推計の結果が有意な項目には網掛けしてある（以下同）

(3) 性別役割分業意識について

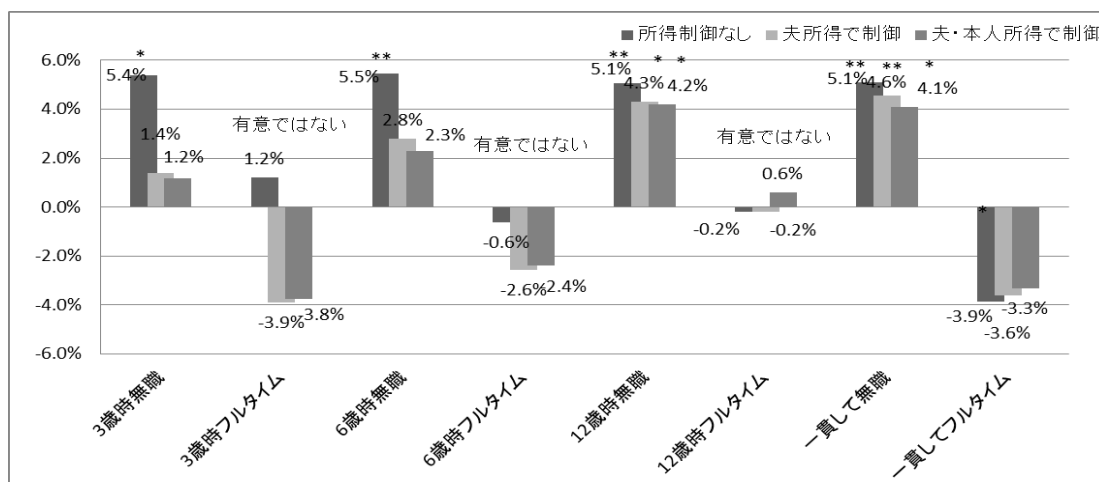
次に、調査時点において母親が性別役割分業に「賛成」する確率に、その母親が3歳、6歳、12歳時点での祖母の就業状況が与える影響をロジットモデルで推計し（付表2-2）、さらに限界値を推計した。ここでの仮説は、男女性別役割分業意識には祖母の就業が影響を与えるというものである。これは先に述べた職業「観」についての先行研究にのっとっている。本稿ではさらに、母親が子どもの頃の祖母の就業状況が与える影響が、現在の経済状況を加えることでどのように変化するかを見るため、所得を加えないモデル、夫の所得を加えたモデル、そして夫と本人、両方の所得を加えたモデルの限界値をそれぞれ推計し、変化を直感的に理解できるように棒グラフで表した。その結果が図表2-8である。

現在の経済状況を考慮せずに推計した結果、3歳、6歳、12歳いずれの時点でも、祖母が

無職であった場合、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に同意する確率を約5%引き上げる効果があった。しかし、現在の経済状況を考慮すると、性別役割分業に賛成する確率に祖母の就業状況が与える影響は、母親が12歳時点で祖母が無職の場合と母親が一貫して無職の場合以外は、ないという結果であった。ここから得られる解釈は、母親自身の性別役割分業意識が、母親が子どもの時の祖母の働き方から受ける影響は限定的で、むしろ本人の収入を含む現在の経済状況によって変化し得るものであるというものであろう。一方で、現在の経済状況を考慮してもなお、12歳時点で祖母が無職であった場合、さらには、3歳、6歳、12歳全ての時点で祖母が無職だった場合の影響は有意であり、性別役割分業に賛成する確率を約4%引き上げた。また、祖母がフルタイム就業であった場合は、いずれのケースも有意な影響を見出せなかった。

以上の結果から、性別役割分業意識については、過去の祖母の就業よりも、本人の収入を含む、現在の経済状況で変化する可能性があると言える。一方で祖母の就業から受ける影響は、母親が子どもの頃に祖母が選んでいた就業状況を肯定的に捉えていることがわかった。

図表2-8 祖母の就業状況別母親の『妻は家庭を守るべき』に対する考え方(賛成)



*制御変数の詳細は付表2-2を参照。

*縦軸は限界値 (dy/dx) を表している。

*直感的には、上向きが賛成する確率の引き上げを表し下向きが引き下げを表している。

これまでの結果により、現在までの母親のキャリアコース、性別役割分業意識はいずれも、母親が子どもの時の祖母の働き方から影響を受けていることが分かった。

母親が3歳だった時の祖母の就業状態は、母親の後のキャリア選択に何ら影響をあたえていなかったが、母親が6歳の時に祖母がフルタイム就業であった場合、現在就業を中断している確率はマイナスであった。さらに、母親が12歳だった時に祖母がフルタイム就業だった場合、継続就業に比べ、現在無職、退職後復帰のいずれにもマイナスの影響を与えていた。母親が3歳、6歳、12歳の全ての時点で祖母が無職であった場合、母親は無職を選ぶ確率が

高く、フルタイム就業だった場合、就業継続を選ぶ確率が高いという結果を得た。

性別役割分業意識においては、現在の経済状況を考慮すると、性別役割分業に賛成する確率における祖母の就業状況の影響はほとんど消えた。一方で、12歳時点で祖母が無職であった場合と、3歳、6歳、12歳全ての時点で祖母が無職だった場合の影響は有意に残っており、性別役割分業に賛成する確率を約4%強引き上げた。しかし、祖母がフルタイム就業であった場合は有意な影響を見出せなかった。

(4) 第一子出産1年後の就業状況

ここでは、母親が第一子を出産して1年後に「無職」「正規」「非正規」「育児休業取得」のいずれかを選択するにあたり、母親が子どもの頃の祖母の就業状況が与える影響を見ることにする。母親が子どもの頃の祖母の就業状況が、母親の就業に何らかの影響を与えているのではないかとの仮説を立ててはいるが、具体的に母親が3歳、6歳、12歳のどの時点での祖母の就業状況が、第一子出産1年後の母親の就業選択に影響を与えているかは明確でないため、全ての選択肢を考慮した多項ロジットで推計した。その結果が図表2-9と図表2-10で示されている。

第一子出産1年後の就業状況については、(1)～(3)での推計結果と異なり、母親が3歳、6歳の時の祖母の就業状況の影響が強くみられた。モデル1をみると、母親が3歳だった頃に祖母が無職だった場合、正規就業、パート、育児休業取得中である確率をいずれも有意に引き下げていることがわかる ($p < 0.01$)。モデル2をみると、母親が6歳時点で祖母が無職だった場合も、正社員、パート、育児休業取得の確率を引き下げている (いずれも $p < 0.01$)。一方、母親が12歳時点での祖母の働き方は、モデル3に示されたとおり、母親が正規就業である確率と育児休業を取得している確率のみを引き下げた (それぞれ $p < 0.01$ 、 $p < 0.1$)。全ての時点で祖母が無職だった場合 (モデル4)、無職に比べて正社員、パート就労、育児休業取得中である確率全てを引き下げた ($p < 0.01$ 、 $p < 0.05$ 、 $p < 0.1$)。逆に、全ての時点で祖母が正規就業だった場合 (モデル5)、出産1年後に正規、または非正規を選ぶ確率を引き上げるが (いずれも $p < 0.01$)、育児休業取得中である確率には影響を及ぼさなかった。

次に、それ以外の主だった変数を確認する。モデル1からモデル5まではほぼ共通の結果であった。出産当時に「ふたり親」つまり、夫がいる状況であれば、無業と比較して非正規である確率を有意に引き下げた一方、正規就業、育児休業取得と無業との間に差は見られなかった。また、初職が正社員の場合、第一子出産1年後の就業でも正社員である確率を引き上げ、非正規である確率を引き下げた。官庁勤務では、正規、育児休業取得である確率を有意に引き上げた (いずれも $p < 0.01$)。

図表2-9 第一子出産1年後の就業状況(抜粋);モデル1、2(多項ロジット)

base:無職	モデル1				モデル2			
	正規	非正規	育休取得	その他	正規	非正規	育休取得	その他
出産1年後当時								
年齢	0.243 (0.152)	-0.223 (0.141)	-0.201 (0.156)	-0.183 (0.188)	0.221 (0.148)	-0.306** (0.139)	-0.210 (0.150)	-0.225 (0.182)
年齢二乗項	-0.00337 (0.00242)	0.00313 (0.00235)	0.00359 (0.00250)	0.00404 (0.00295)	-0.00302 (0.00235)	0.00444* (0.00231)	0.00381 (0.00241)	0.00460 (0.00288)
学歴:高卒	0.630 (0.455)	0.231 (0.365)	-0.279 (0.587)	0.274 (0.593)	0.632 (0.436)	0.198 (0.357)	-0.423 (0.549)	0.117 (0.529)
:専修/各種学校卒	1.092** (0.466)	0.323 (0.410)	-0.500 (0.619)	0.277 (0.640)	1.063** (0.445)	0.239 (0.400)	-0.772 (0.587)	0.139 (0.579)
:短大/高専卒	0.888* (0.464)	-0.446 (0.415)	-0.416 (0.587)	-0.807 (0.650)	0.942** (0.444)	-0.443 (0.405)	-0.588 (0.553)	-0.832 (0.574)
:四大卒以上	1.903*** (0.477)	0.144 (0.441)	0.300 (0.599)	0.177 (0.656)	1.929*** (0.457)	0.157 (0.433)	0.0887 (0.567)	0.0838 (0.587)
既婚	-0.390 (0.329)	-0.991*** (0.297)	-0.103 (0.457)	-0.267 (0.450)	-0.294 (0.318)	-0.973*** (0.289)	-0.0250 (0.442)	-0.514 (0.423)
初職正社員	0.852*** (0.213)	-0.458** (0.183)	0.343 (0.228)	-0.452* (0.262)	0.731*** (0.199)	-0.435** (0.179)	0.375* (0.224)	-0.434* (0.257)
均等法以降就職	0.207 (0.206)	0.175 (0.262)	0.379 (0.295)	-0.600** (0.293)	0.167 (0.201)	0.201 (0.261)	0.392 (0.280)	-0.604** (0.286)
育休義務化以降出産	-0.0621 (0.212)	-0.0388 (0.255)	0.218 (0.294)	-0.627** (0.293)	-0.0691 (0.207)	-0.105 (0.252)	0.0615 (0.278)	-0.604** (0.287)
大企業	0.144 (0.136)	-0.0334 (0.169)	-0.219 (0.179)	-0.476* (0.245)	0.155 (0.133)	-0.0503 (0.166)	-0.203 (0.177)	-0.458* (0.243)
官庁	1.685*** (0.321)	-0.0477 (0.652)	1.349*** (0.404)	0.249 (0.673)	1.662*** (0.320)	-0.0233 (0.653)	1.332*** (0.406)	0.291 (0.667)
母親の年齢と祖母の就業状況								
3歳時点:祖母無職	-0.966*** (0.179)	-0.814*** (0.221)	-0.554** (0.248)	-0.557* (0.302)				
3歳時点:祖母フルタイム	-0.100 (0.190)	0.123 (0.236)	-0.362 (0.281)	0.216 (0.322)				
6歳時点:祖母無職					-0.678*** (0.156)	-0.745*** (0.195)	-0.511** (0.202)	-0.0712 (0.276)
6歳時点:祖母フルタイム					0.180 (0.155)	0.296 (0.184)	-0.0679 (0.218)	0.546** (0.276)
12歳時点:祖母無職								
12歳時点:祖母フルタイム								
3時点で祖母無職								
3時点で祖母フルタイム								
定数項	-6.231*** (2.372)	3.740* (2.132)	0.493 (2.195)	1.177 (2.783)	-6.280*** (2.316)	4.672** (2.107)	0.346 (2.155)	1.805 (2.711)
観測数	2,597	2,597	2,597	2,597	2,709	2,709	2,709	2,709

*モデルの選定にあたりハウスマン検定をおこなった。結果いずれのモデルも多項ロジットが採択された。

*推計にあたり、上記変数以外にも、夫学歴、父親学歴、兄弟数、長子、虐待経験でコントロールしている。

図表2-10 第一子出産1年後の就業状況(抜粋):モデル3、4、5(多項ロジット)

base:無職	モデル3				モデル4				モデル5			
	正規	非正規	育休取得	その他	正規	非正規	育休取得	その他	正規	非正規	育休取得	その他
出産1年後当時												
年齢	0.224 (0.145)	-0.275** (0.138)	-0.212 (0.147)	-0.215 (0.181)	0.240* (0.142)	-0.269** (0.136)	-0.224 (0.145)	-0.190 (0.177)	0.238* (0.142)	-0.277** (0.138)	-0.220 (0.145)	-0.198 (0.176)
年齢二乗項	-0.00305 (0.00230)	0.00399* (0.00228)	0.00373 (0.00237)	0.00439 (0.00285)	-0.00331 (0.00227)	0.00392* (0.00227)	0.00396* (0.00233)	0.00401 (0.00280)	-0.00334 (0.00226)	0.00400* (0.00228)	0.00387* (0.00234)	0.00408 (0.00279)
学歴:高卒	0.555 (0.428)	0.298 (0.392)	-0.418 (0.561)	-0.00929 (0.534)	0.285 (0.400)	0.173 (0.357)	-0.288 (0.566)	-0.314 (0.471)	0.281 (0.408)	0.205 (0.362)	-0.279 (0.572)	-0.291 (0.485)
:専修/各種学校卒	0.998** (0.438)	0.343 (0.432)	-0.760 (0.597)	0.0563 (0.579)	0.762* (0.412)	0.233 (0.400)	-0.674 (0.603)	-0.309 (0.522)	0.726* (0.417)	0.233 (0.405)	-0.670 (0.609)	-0.321 (0.533)
:短大/高専卒	0.830* (0.437)	-0.420 (0.436)	-0.574 (0.566)	-0.935 (0.577)	0.625 (0.410)	-0.423 (0.401)	-0.452 (0.574)	-1.178** (0.515)	0.552 (0.416)	-0.445 (0.407)	-0.472 (0.581)	-1.206** (0.528)
:四大卒以上	1.791*** (0.448)	0.151 (0.458)	0.131 (0.579)	-0.140 (0.595)	1.566*** (0.422)	0.0472 (0.428)	0.217 (0.585)	-0.397 (0.531)	1.465*** (0.427)	0.0184 (0.432)	0.174 (0.592)	-0.440 (0.545)
既婚	-0.421 (0.303)	-0.965*** (0.282)	0.0309 (0.435)	-0.334 (0.430)	-0.378 (0.294)	-0.990*** (0.276)	-0.159 (0.414)	-0.377 (0.423)	-0.433 (0.300)	-1.042*** (0.290)	-0.178 (0.414)	-0.406 (0.422)
初職正社員	0.719*** (0.195)	-0.456** (0.178)	0.371* (0.221)	-0.394 (0.258)	0.690*** (0.187)	-0.472*** (0.175)	0.347 (0.218)	-0.416* (0.249)	0.669*** (0.192)	-0.489*** (0.177)	0.342 (0.219)	-0.429* (0.250)
均等法以降就職	0.194 (0.198)	0.229 (0.254)	0.281 (0.266)	-0.585** (0.285)	0.178 (0.196)	0.228 (0.253)	0.289 (0.264)	-0.584** (0.277)	0.194 (0.194)	0.230 (0.254)	0.313 (0.262)	-0.583** (0.276)
育休義務化以降出産	-0.0717 (0.205)	-0.111 (0.253)	0.0613 (0.268)	-0.593** (0.285)	-0.0523 (0.202)	-0.0888 (0.249)	0.100 (0.267)	-0.549** (0.279)	-0.0190 (0.202)	-0.0531 (0.253)	0.0999 (0.266)	-0.519* (0.277)
大企業	0.154 (0.131)	-0.103 (0.164)	-0.237 (0.174)	-0.460* (0.244)	0.181 (0.129)	-0.0914 (0.162)	-0.228 (0.173)	-0.473** (0.239)	0.154 (0.128)	-0.109 (0.163)	-0.252 (0.173)	-0.497** (0.232)
官庁	1.573*** (0.315)	-0.117 (0.652)	1.253*** (0.399)	0.272 (0.665)	1.573*** (0.310)	-0.126 (0.648)	1.246*** (0.397)	0.174 (0.664)	1.631*** (0.308)	-0.112 (0.657)	1.262*** (0.395)	0.222 (0.659)
母親の年齢と祖母の就業状況												
3歳時点:祖母無職												
3歳時点:祖母フルタイム												
6歳時点:祖母無職												
6歳時点:祖母フルタイム												
12歳時点:祖母無職	-0.447*** (0.161)	-0.0836 (0.205)	-0.351* (0.208)	0.0742 (0.286)								
12歳時点:祖母フルタイム	0.352*** (0.136)	0.520*** (0.165)	0.115 (0.179)	0.719*** (0.240)								
3時点で祖母無職					-0.680*** (0.147)	-0.431** (0.187)	-0.359* (0.192)	-0.362 (0.243)				
3時点で祖母フルタイム									0.643*** (0.131)	0.756*** (0.161)	0.0266 (0.194)	0.758*** (0.215)
定数項	-6.396*** (2.268)	3.723* (2.065)	0.364 (2.100)	1.318 (2.696)	-6.102*** (2.198)	4.052** (2.048)	0.601 (2.067)	1.934 (2.650)	-6.157*** (2.195)	4.042* (2.073)	0.525 (2.063)	1.917 (2.643)
観測数	2,755	2,755	2,755	2,755	2,854	2,854	2,854	2,854	2,854	2,854	2,854	2,854

*モデルの選定にあたりハウスマン検定をおこなった。結果いずれのモデルも多項ロジットが採択された。
*推計にあたり、上記変数以外にも、夫学歴、父親学歴、兄弟数、長子、虐待経験でコントロールしている。

(5) 第一子出産1年後の就業状況:限界値

次に、第一子出産1年後、就業形態を問わず就業に関わっているかに注目して、ロジットモデルで推計を行い、母親が子どもの頃の祖母の就業状況についてのみ、限界値を算出した。

その結果が図表2-11に示されている。

母親が3歳、6歳の時に祖母が無職だった場合、母親が出産1年後に就業する確率はそれぞれ、18.0%、13.3%有意に引き下げられた ($p<0.01$)。また、母親が12歳の時に祖母が無職だった場合は7.0%引き下げられ、フルタイム就業だった場合は8.4%引き上げられた ($p<0.01$)。さらに全ての年齢時点で祖母が無職だった場合(一貫して無職)は12.6%母親の就業を引き下げたが、全ての時点でフルタイム就業だった場合(一貫してフルタイム)、第一子出産1年後の母親の就業確率を12.6%引き上げた ($p<0.01$)。

育児経験がない中、小さな子どもを抱えて仕事をどうするべきかを決断しなければならない場面に遭遇した時、祖母の就業行動を踏襲する効果がより強くでるという結果が得られた。

図表2-11 祖母の就業状況別第一子出産1年後の母親の就業確率

母親の年齢と祖母の就業	dy/dx	Std. Err.	z	P> z
3歳時：無職	-0.180	0.031	-5.870	0.000
3歳時：フルタイム	-0.018	0.035	-0.510	0.608
6歳時：無職	-0.133	0.026	-5.180	0.000
6歳時：フルタイム	0.038	0.028	1.380	0.167
12歳時：無職	-0.070	0.027	-2.600	0.009
12歳時：フルタイム	0.084	0.023	3.620	0.000
一貫して無職	-0.126	0.024	-5.220	0.000
一貫してフルタイム	0.126	0.023	5.390	0.000

*制御変数の詳細は付表2-3を参照。

(6) 第一子出産3年後の就業状況：限界値

第一子出産3年後の就業状況も第一子出産1年後の就業状況と同様、ロジットモデルで推計した。その結果、1年後の就業状況とほぼ同様の結果が得られた(結果は割愛)。結果に変わりがなかった原因として、出産1年後にすでに復職している母親は、子どもが3歳になっても継続して就業している一方で、出産1年後に復職しなかったものは、3年後も引き続き復職していない可能性がある。

よって、ここでは子どもが1歳の時に無職であったサンプルに限定して推計した。結果は図表2-12の通りである。母親が3歳、6歳の時に祖母が無職だった場合、第一子出産3年後に就業する確率をそれぞれ11.2%、8.8%引き下げ ($p<0.01$)、全ての時点で無職だった場合、5.6%の就業引き下げ効果があった ($p<0.1$)。また、母親が3歳、6歳、12歳いずれの時点で祖母が無職だと何らかの形で就業する確率を5.6%引き下げた。さらに、全ての時点で祖母がフルタイム就業の場合、母親の就業選択に影響を及ぼさなかった。

図表2-12 第一子出産1年後は無職であったが、3年後無職ではない確率

母親の年齢と祖母の就業	dy/dx	Std. Err.	z	P> z
3歳時：無職	-0.112	0.040	-2.820	0.005
3歳時：フルタイム	-0.051	0.045	-1.140	0.256
6歳時：無職	-0.088	0.031	-2.860	0.004
6歳時：フルタイム	-0.018	0.034	-0.520	0.601
12歳時：無職	-0.053	0.031	-1.710	0.087
12歳時：フルタイム	0.014	0.028	0.510	0.607
一貫して無職	-0.056	0.028	-1.990	0.046
一貫してフルタイム	0.038	0.030	1.250	0.213

*制御変数の詳細は付表2-4を参照。

7 まとめ

本稿は、第2回、第3回 JILPT 子育て世帯全国調査の個票データを用い、現在子育て中の母親の働き方および性別役割分業意識について、母親が子どもだった時の祖母（母親の母親）の就業状況の影響の有無を推計したものである。

まず、母親自身が実際歩んだライフコースが、祖母の過去の就業状況、特に6歳、12歳時点で祖母がフルタイム就業であった場合と、3歳、6歳、12歳の時点で一貫して無職、または正規就業であった場合、祖母がフルタイムなら母親の就業継続にはプラスの影響、専業主婦ならマイナスの影響を与えるという結果がえられた。6歳時点、12歳時点で祖母がフルタイムであった場合、母親の継続就業選択確率をそれぞれ6.8%、5.4%引き上げ、一貫して無職なら5.5%引き下げ、一貫してフルタイムなら6.9%引き上げた。一方、男女性別役割分業意識については、一見有意に影響があるように思われたが、現在の経済状況で制御したところ、その影響は、12歳時点で無職だと4.2%賛成と答える確率を引き上げ、一貫して無職であった場合は、4.1%の引き上げ効果がみられるに留まった。

次に過去へ遡り、出産、子育てが未経験である第一子出産1年後の母親の就業状況が、母親が子どもの頃の祖母の就業状況から受ける影響について検討した。その結果、全ての時点で祖母が無職であった場合、それぞれ18.0%、13.3%、7.0%の引き下げ効果があった。また、3歳時点で一貫して無職なら5.5%の引き下げ、および一貫してフルタイム就業の場合は6.9%の引き上げ効果が見られた。一方、第一子出産3年後の母親の働き方に祖母が与える影響は限定的で、3歳、6歳で無業の場合にそれぞれ11.2%、8.8%の引き下げ効果がみられた。また、一貫して無職なら12.6%の引き下げ、フルタイム就業なら12.6%の引き上げ効果がみられた。

本稿には、以下の課題が残されている。まずは、質問項目の中から母親が子どもの頃の生活環境を表していると考えられる変数をいれたものの、当時の年収などを十分に制御できたとは言いがたい。観測できない個人の属性を含む内生性の問題も残されたままになっており、本稿では、母親の就業と祖母の過去の就業状況の関連性を示唆するに留まっている。パネルデータを用いた分析、または適切な操作変数の選定など、さらなるモデルの改善が必要であ

る。その一方で、母親の就業と祖母の過去の就業状況の関連性を示唆できたということは、少なくとも以下のような政策的示唆は可能であろう。

8 政策的示唆

今回、母親の中でも、特に子育て経験のない母親が、妊娠出産前後に就労選択の場面に直面した時、祖母から影響をうけると考えられることが示唆された。これは、子育て支援のパッケージを用意し、その周知を行うだけでは、政策効果が目減りしてしまう可能性をはらんでいると言えるかもしれない。一方、ライフステージが進むごとに影響が徐々に薄まり、最終的に無職の祖母の影響はほぼ消え、フルタイム就業していた祖母の影響が残ることも、第一子出産3年後、現在の就業継続確率の限界値を合わせてみれば推測される。また、本稿の分析により、祖母の就業状況に「倣っている」ともいえる結果が得られた。これにより、身近に手本となるロールモデルが存在しないため、経済状況も支援環境も異なる一世代前の就業や育児を参考にし、その結果、母親自身の世帯の家計状況や、就業や育児のやり方に対してもともと持っていた選好に合わない就業と育児を選んでしまっている可能性も考えられる。

これらの結論を踏まえると、両立支援策を必要な母親に十分に利用してもらうためには、結婚出産で離職してしまう前に、支援策をいかに利用しつつ子育てや生活と仕事を両立させるかについて、例えば世代の近い経験者から直接レクチャーを受ける機会を得るなどすることで、具体的な生活をイメージ可能にしておくことも重要であるといえる。タイミングは、第一子出産1年後の働き方における祖母の影響の結果で考えると、最も遅くて第一子の妊娠、出産前までに行う必要があると考えられよう。

母親の妊娠、出産後の就業においては、経済状況も支援状況も異なる祖母の世代より、むしろ比較的世代の近い女性の就業を参考にすることが必要であろう。それにより、両立のイメージを具体化させ、現在の生活環境に即した、就業選択の意思決定が可能になると考えられる。

参考文献

- 奥津眞里 (2009) 「生涯の時間軸で考える結婚・育児期の就業中断と再就職—何故やめて、また働くのか、その意義は」 *Business Labor Trend*, 17-22
- 川口章 (2008) 『ジェンダー経済格差』 勁草書房
- 田澤実 (2010) 「大学生のライフ・キャリア・パースペクティブと親の生き方の認知」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』 7, 143-156
- 中村三緒子 (2013a) 「女性の職業経歴分化を規定する要因」『名古屋女子大学紀要』 59 (人社) 161-170
- 中村三緒子 (2013b) 「大卒女性のライフコースを分ける要因に関する研究」

- <http://riwac.jp/admin/wp-content/uploads/2013/09/1ee2d670d49852237aa7960fb6b990771.pdf>
- 長尾由希子 (2008) 「若年男女における性別役割分業意識の変化とその特徴：高校生のパネル調査から」 東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ No.12
- 永瀬伸子 (2011) 「子育て期における仕事と家庭の調和に関する調査－母親と女子高校生の就業意識－」 『ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和 プロジェクト』
<http://www.dc.ocha.ac.jp/gender/workfam/event/school1.pdf>
- 副田素子・柏木恵子 (1980) 「女性の職業志向性に及ぼす母親の影響」 『東京女子大学 紀要論集』 31(1),213－238
- 藤原純子 (1981) 「母親の就労が子どもの職業的性役割認識の発達に及ぼす影響」 『家政学雑誌』 Vol.32 No.2 日本家政学会,119－125
- 牧野カツコ (1989) 「母親の就労化と家族関係」 『教育社会学研究』 44,50-70
- 水谷徳子 (2015) 「子どもの頃の居住地の女性就業と母親の就業が女性の労働供給に与える影響」 『家計経済研究所パネル調査研究報告書 No.10 女性のライフコース 消費生活に関するパネル調査 (第22回調査)』 家計経済研究所
- 三輪哲 (2010) 「現代日本における世代間移動と世代内移動:1995-2005」 『中央調査報』 No.629
<http://www.crs.or.jp/backno/No629/6291.htm>
- 宗倉絹枝・石川洋子 (1991) 「女子学生の就業形態に対する意識調査研究—母親との比較調査より—1990」 『家政研究』 22,23－28
- 村松幹子 (1994) 「女子学生のライフコース観の形成—親の影響を中心に」 『年報社会学論集』 7,85-96
- 八重樫牧子・奥山清子・林基子・本保恭子・小河孝則 (2001) 「母親の就労が女子大生の就労観や子育て観に与える影響について」 『川崎医療福祉学会誌』 11(2),245-253
- 厚生労働省 (2013) 『平成25年度版働く女性の実情』
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/13.html>
- 厚生労働省 (2015) 『平成27年国民生活基礎調査結果の概要』
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa15/index.html>
- JILPT (2013) 『子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査2012 (第2回子育て世帯全国調査)』 JILPT 調査シリーズ No.109
- JILPT (2015) 『子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査2014 (第3回子育て世帯全国調査)』 JILPT 調査シリーズ No.145
- 内閣府 (2006) 『平成18年度版国民生活白書』
http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h18/01_honpen/index.html

内閣府 (2015) 『男女共同参画白書 平成 27 年度版』

http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h27/zentai/html/honpen/b1_s02_01.html

Antel, John J. (1992) “The Intergenerational Transfer of Welfare Dependency: Some Statistical Evidence” *The Review of Economics and Statistics* Vol. 74, No. 3, pp.467-473.

Anger, Silke and Heineck, Guido (2010) “Do Smart Parents Raise Smart Children? The Intergenerational Transmission of Cognitive Abilities” *Journal of Population Economics* Vol. 23, No. 3, pp.1255-1282.

Corak, Miles and Piraino, Patrizio (2011) “Intergenerational Transmission of Employers” *Journal of Labor Economics* Vol. 29, No. 1, pp.37-68.

Dunn, Thomas and Holtz-Eakin, Douglas (1996) “Financial Capital, Human Capital, and the Transition to Self-Employment: Evidence from Intergenerational Links” *NBER Working Paper* No. 5622 (Also Reprint No. r2275).

Fernández, Raquel, Fogli, Alessandra and Olivetti, Claudia (2004) “Mothers and Sons: Preference Formation and Female Labor Force Dynamics” *The Quarterly Journal of Economics* Vol. 119, No. 4, pp.1249-1299.

Kawaguchi, Daiji and Miyazaki, Junko (2009) “Working Mothers and Sons’ Preferences regarding Female Labor Supply: Direct Evidence from Stated Preferences” *Journal of Population Economics* Vol. 22, No. 1, pp.115-130.

Min, JooHong, Silverstein, Merril and Lendon, Jessica P. (2012) “Intergenerational transmission of values over the family life course” [*Advances in Life Course Research* Vol. 17, Issue 3, pp.112-120.](#)

Morrill, Melinda Sandler and Morrill, Thayer (2013) “Intergenerational links in female labor force participation” *Labour Economics*, Vol.20, pp.38-47.

Tanaka, Ryuichi (2008) “The Gender-asymmetric Effect of Working Mothers on Children’s Education: Evidence from Japan” *Journal of the Japanese and International Economies* Vol. 22, Issue 4, December, pp.586-604.

Winkelmann, Rainer and Boes, Stefan (2005) *Analysis of Microdata*, Springer, pp.139-149.

付表2-1 継続就業有無

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
現在の状況					
年齢	0.0188 (0.0977)	-0.00457 (0.0945)	0.00917 (0.0942)	0.0365 (0.0911)	0.0349 (0.0911)
年齢二乗項	0.000351 (0.00131)	0.000560 (0.00126)	0.000441 (0.00126)	0.000154 (0.00122)	0.000149 (0.00122)
学歴:高卒	0.610* (0.340)	0.646** (0.322)	0.620* (0.320)	0.451 (0.299)	0.503* (0.306)
:専修/各種学校卒	0.352 (0.360)	0.402 (0.342)	0.388 (0.341)	0.185 (0.320)	0.227 (0.326)
:短大/高専卒	0.681* (0.349)	0.709** (0.331)	0.676** (0.329)	0.531* (0.309)	0.555* (0.315)
:四大卒以上	0.398 (0.362)	0.401 (0.346)	0.398 (0.344)	0.230 (0.324)	0.242 (0.330)
既婚	0.457*** (0.171)	0.472*** (0.173)	0.524*** (0.171)	0.492*** (0.169)	0.491*** (0.170)
子どもの数	-0.296*** (0.0771)	-0.308*** (0.0753)	-0.325*** (0.0751)	-0.317*** (0.0737)	-0.313*** (0.0736)
末子年齢	-0.160*** (0.0171)	-0.157*** (0.0167)	-0.159*** (0.0165)	-0.161*** (0.0162)	-0.160*** (0.0163)
親:同/近居	0.288** (0.115)	0.263** (0.112)	0.248** (0.111)	0.212* (0.109)	0.204* (0.109)
本人年収	0.00434*** (0.000384)	0.00435*** (0.000382)	0.00431*** (0.000379)	0.00432*** (0.000371)	0.00434*** (0.000368)
夫年収	-0.000675*** (0.000240)	-0.000572** (0.000254)	-0.000570** (0.000257)	-0.000596** (0.000254)	-0.000598** (0.000253)
持ち家	-0.0838 (0.150)	-0.0248 (0.146)	0.0156 (0.145)	0.0343 (0.143)	0.00345 (0.142)
住宅ローン	0.131 (0.128)	0.0599 (0.124)	0.0140 (0.123)	-0.0140 (0.121)	0.0144 (0.121)
初職正社員	0.314** (0.150)	0.308** (0.147)	0.288** (0.146)	0.294** (0.143)	0.288** (0.143)
均等法以降就職	-0.194 (0.234)	-0.183 (0.227)	-0.147 (0.224)	-0.139 (0.219)	-0.135 (0.219)
育休義務化以降出産	-0.277 (0.204)	-0.317 (0.198)	-0.309 (0.195)	-0.288 (0.192)	-0.277 (0.192)
大企業	0.125 (0.117)	0.118 (0.116)	0.109 (0.115)	0.115 (0.113)	0.106 (0.112)
官庁	1.023*** (0.337)	0.832** (0.345)	0.829** (0.349)	0.849** (0.342)	0.868** (0.343)
過去の状況					
父学歴:高卒	0.00257 (0.132)	0.0456 (0.128)	0.0142 (0.127)	-0.00214 (0.124)	0.000187 (0.124)
:専修/各種学校卒	0.239 (0.248)	0.302 (0.250)	0.185 (0.249)	0.176 (0.244)	0.199 (0.243)
:短大/高専卒	-0.0198 (0.373)	-0.0241 (0.357)	-0.0727 (0.354)	-0.0729 (0.338)	-0.0421 (0.339)
:四大卒以上	-0.0217 (0.173)	-0.00522 (0.172)	-0.0123 (0.169)	-0.0170 (0.167)	-0.0262 (0.167)
兄弟数	-0.000964 (0.0739)	0.0126 (0.0724)	0.00731 (0.0725)	-0.0185 (0.0701)	-0.0259 (0.0695)
長子	-0.0868 (0.112)	-0.0633 (0.111)	-0.0369 (0.109)	-0.0396 (0.107)	-0.0502 (0.107)
虐待経験	-0.179 (0.183)	-0.169 (0.178)	-0.137 (0.177)	-0.127 (0.171)	-0.126 (0.171)
母親の年齢と祖母の就業状況					
3歳時点:祖母無職	-0.124 (0.173)				
3歳時点:祖母フルタイム	0.275 (0.186)				
6歳時点:祖母無職		0.0347 (0.140)			
6歳時点:祖母フルタイム		0.336** (0.144)			
12歳時点:祖母無職			-0.0837 (0.135)		
12歳時点:祖母フルタイム			0.266** (0.122)		
3時点で祖母無職				-0.270** (0.124)	
3時点で祖母フルタイム					0.342*** (0.119)
定数項	-0.876 (1.742)	-0.519 (1.682)	-0.807 (1.670)	-1.041 (1.618)	-1.128 (1.620)
観測数	2,228	2,313	2,360	2,432	2,432

*推定されている値は、β値である。この推計を元に限界値を計算した

*以下付表2-4まで全て同様である。

付表2-2 性別役割分業意識(抜粋)

性別役割分業賛成	年収コントロールなし	夫年収コントロール	夫・本人年収コントロール
本人年収			-0.00236*** (0.000471) -0.00235*** (0.000463) -0.00232*** (0.000455) -0.00239*** (0.000449) -0.00241*** (0.000449)
夫年収		0.000204 (0.000192) 0.000200 (0.000183) 0.000229 (0.000180) 0.000231 (0.000178) 0.000241 (0.000178)	9.77e-05 (0.000196) 9.28e-05 (0.000187) 0.000123 (0.000184) 0.000121 (0.000183) 0.000127 (0.000183)
母親の年齢と祖母の就業状況			
3歳時点：祖母無業	0.271* (0.146)	0.0720 (0.159)	0.0622 (0.163)
3歳時点：祖母フルタイム	0.0617 (0.166)	-0.202 (0.183)	-0.198 (0.189)
6歳時点：祖母無業	0.277** (0.122)	0.146 (0.132)	-2.231 (1.612)
6歳時点：祖母フルタイム	-0.0317 (0.133)	-0.134 (0.146)	-0.128 (0.150)
12歳時点：祖母無業	0.256** (0.120)	0.225* (0.132)	0.222 (0.135)
12歳時点：祖母フルタイム	-0.00920 (0.111)	-0.0102 (0.122)	0.0311 (0.124)
3時点で祖母無業	0.256** (0.110)		0.217* (0.125)
3時点で祖母フルタイム	-0.194* (0.116)	0.237* (0.121)	-0.175 (0.134)
定数項	-2.939** (1.480) -2.977** (1.450) -2.847** (1.436) -2.356* (1.370) -2.350* (1.371)	-2.341 (1.585) -2.525 (1.552) -2.001 (1.517) -1.882 (1.472) -1.888 (1.473)	-2.363 (1.575) -1.923 (1.538) -1.762 (1.492) -1.776 (1.495)
観測数	2,718 2,838 2,889 2,994 2,994	2,381 2,483 2,528 2,612 2,612	2,284 2,376 2,422 2,498 2,498

Standard errors in parentheses
*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

* これらの変数の他に、年齢、年齢二乗項、学歴、既婚有無、子どもの数、末子年齢、親近/同居、持ち家、住宅ローン、初職正社員、均等法以降就職、育児義務化以降出産、大企業、官庁、父親学歴、兄弟数、長子、虐待経験、でコントロールされている

付表2-3 第一子出産1年後復職

第一子出産1年後	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
出産1年後当時 年齢	-0.125 (0.0917)	-0.161* (0.0895)	-0.140 (0.0886)	-0.126 (0.0872)	-0.129 (0.0872)
年齢二乗項	0.00230 (0.00148)	0.00287** (0.00145)	0.00250* (0.00143)	0.00230 (0.00141)	0.00230 (0.00141)
学歴：高卒	0.121 (0.287)	0.0252 (0.279)	0.0179 (0.297)	-0.107 (0.264)	-0.0923 (0.279)
：専修/各種学校卒	0.243 (0.307)	0.121 (0.297)	0.123 (0.313)	-0.000568 (0.283)	-0.0130 (0.296)
：短大/高専卒	-0.140 (0.303)	-0.177 (0.293)	-0.214 (0.310)	-0.287 (0.280)	-0.330 (0.293)
：四大卒以上	0.747** (0.313)	0.690** (0.305)	0.638** (0.319)	0.532* (0.290)	0.467 (0.303)
既婚	-0.522** (0.233)	-0.516** (0.227)	-0.516** (0.218)	-0.538** (0.213)	-0.574** (0.220)
夫学歴：高卒	-0.0806 (0.208)	-0.0953 (0.205)	-0.0740 (0.205)	-0.0818 (0.196)	-0.0824 (0.202)
：専修/各種学校卒	-0.00625 (0.239)	0.0361 (0.234)	0.0664 (0.232)	0.0434 (0.224)	0.0536 (0.229)
：短大/高専卒	0.629** (0.282)	0.507* (0.278)	0.511* (0.274)	0.470* (0.264)	0.506* (0.268)
：四大卒以上	-0.361* (0.218)	-0.354 (0.216)	-0.347 (0.215)	-0.344* (0.206)	-0.358* (0.211)
：その他	0.494** (0.232)	0.515** (0.230)	0.547** (0.228)	0.544** (0.220)	0.527** (0.223)
初職正社員	0.155 (0.125)	0.146 (0.122)	0.144 (0.119)	0.120 (0.115)	0.108 (0.118)
均等法以降就職	0.100 (0.151)	0.0879 (0.147)	0.0896 (0.144)	0.0740 (0.143)	0.0990 (0.142)
育休義務化以降出産	-0.0613 (0.155)	-0.0902 (0.152)	-0.0828 (0.150)	-0.0690 (0.147)	-0.0448 (0.148)
大企業	-0.0205 (0.100)	-0.00351 (0.0991)	-0.0250 (0.0968)	-0.00841 (0.0951)	-0.0236 (0.0954)
官庁	1.146*** (0.289)	1.162*** (0.288)	1.082*** (0.282)	1.073*** (0.279)	1.124*** (0.278)
過去の状況 父学歴：高卒	-0.103 (0.112)	-0.0589 (0.109)	-0.0722 (0.107)	-0.131 (0.105)	-0.129 (0.105)
：専修/各種学校卒	-0.0683 (0.226)	0.0771 (0.226)	-0.0315 (0.218)	-0.0294 (0.214)	-0.0124 (0.212)
：短大/高専卒	0.172 (0.297)	0.185 (0.301)	0.194 (0.299)	0.139 (0.287)	0.181 (0.306)
：四大卒以上	0.00135 (0.142)	0.0809 (0.142)	0.0464 (0.138)	0.0367 (0.136)	0.00989 (0.136)
兄弟数	0.0389 (0.0593)	0.0653 (0.0582)	0.0697 (0.0572)	0.0278 (0.0553)	0.00668 (0.0555)
長子	0.176* (0.0949)	0.172* (0.0932)	0.174* (0.0917)	0.165* (0.0897)	0.154* (0.0902)
虐待経験	0.173 (0.149)	0.217 (0.144)	0.200 (0.142)	0.212 (0.139)	0.224 (0.140)
母親の年齢と祖母の就業状況					
3歳時点：祖母無職	-0.786*** (0.138)				
3歳時点：祖母フルタイム	-0.0781 (0.152)				
6歳時点：祖母無職		-0.577*** (0.114)			
6歳時点：祖母フルタイム		0.165 (0.120)			
12歳時点：祖母無職			-0.299*** (0.115)		
12歳時点：祖母フルタイム			0.360*** (0.101)		
3時点で祖母無職				-0.538*** (0.105)	
3時点で祖母フルタイム					0.538*** (0.102)
定数項	2.045 (1.378)	2.341* (1.352)	1.764 (1.337)	2.000 (1.316)	1.940 (1.320)
観測数	2,709	2,826	2,877	2,980	2,980

Standard errors in parentheses

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

付表2-4 第一子出産3年後復職

第一子出産3年後	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
第一子出産3年後当時 年齢	-0.290** (0.144)	-0.315** (0.142)	-0.269* (0.139)	-0.264* (0.137)	-0.264* (0.137)
年齢二乗項	0.00459** (0.00218)	0.00497** (0.00215)	0.00421** (0.00211)	0.00412** (0.00208)	0.00410** (0.00208)
学歴：高卒	0.126 (0.392)	0.0314 (0.391)	0.0157 (0.416)	0.0223 (0.416)	0.0301 (0.395)
:専修/各種学校卒	0.338 (0.422)	0.140 (0.419)	0.0942 (0.443)	0.0997 (0.416)	0.0983 (0.423)
:短大/高専卒	-0.153 (0.409)	-0.278 (0.405)	-0.293 (0.430)	-0.246 (0.403)	-0.262 (0.410)
:四大卒以上	0.537 (0.424)	0.385 (0.421)	0.367 (0.445)	0.343 (0.418)	0.311 (0.425)
既婚	-1.299*** (0.253)	-1.298*** (0.251)	-1.380*** (0.249)	-1.377*** (0.245)	-1.378*** (0.246)
夫学歴：高卒	-0.525* (0.284)	-0.536* (0.280)	-0.559** (0.277)	-0.544** (0.274)	-0.522* (0.273)
:専修/各種学校卒	-0.207 (0.320)	-0.119 (0.316)	-0.141 (0.312)	-0.155 (0.309)	-0.138 (0.308)
:短大/高専卒	-0.119 (0.394)	-0.218 (0.385)	-0.200 (0.382)	-0.233 (0.372)	-0.216 (0.370)
:四大卒以上	-0.710** (0.298)	-0.640** (0.293)	-0.750*** (0.291)	-0.697** (0.287)	-0.687** (0.286)
:その他	0.218 (0.322)	0.200 (0.316)	0.217 (0.314)	0.238 (0.310)	0.251 (0.310)
初職正社員	-0.135 (0.160)	-0.101 (0.157)	-0.136 (0.157)	-0.110 (0.154)	-0.104 (0.155)
均等法以降就職	0.273 (0.216)	0.310 (0.212)	0.287 (0.205)	0.266 (0.204)	0.277 (0.203)
育休義務化以降出産	0.468** (0.227)	0.388* (0.219)	0.314 (0.211)	0.431** (0.211)	0.446** (0.212)
大企業	-0.235* (0.139)	-0.228* (0.137)	-0.193 (0.135)	-0.182 (0.133)	-0.202 (0.133)
官庁	0.322 (0.391)	0.513 (0.389)	0.427 (0.380)	0.435 (0.380)	0.469 (0.380)
過去の状況					
父学歴：高卒	0.0175 (0.157)	-0.0272 (0.151)	-0.0631 (0.149)	-0.0764 (0.146)	-0.0799 (0.146)
:専修/各種学校卒	0.324 (0.294)	0.426 (0.291)	0.338 (0.281)	0.332 (0.277)	0.344 (0.275)
:短大/高専卒	0.0310 (0.416)	0.00587 (0.406)	0.0403 (0.395)	-0.00392 (0.389)	-0.0257 (0.399)
:四大卒以上	0.191 (0.196)	0.235 (0.193)	0.180 (0.191)	0.200 (0.187)	0.175 (0.187)
兄弟数	0.128 (0.0787)	0.128* (0.0764)	0.120 (0.0763)	0.0926 (0.0740)	0.0826 (0.0733)
長子	0.0716 (0.128)	0.00515 (0.125)	-0.0292 (0.123)	-0.0172 (0.120)	-0.0242 (0.120)
虐待経験	0.504** (0.200)	0.556*** (0.193)	0.549*** (0.195)	0.549*** (0.191)	0.559*** (0.191)
母親の年齢と祖母の就業状況					
3歳時点：祖母無職	-0.557*** (0.199)				
3歳時点：祖母フルタイム	-0.254 (0.224)				
6歳時点：祖母無職		-0.437*** (0.154)			
6歳時点：祖母フルタイム		-0.0891 (0.170)			
12歳時点：祖母無職			-0.263* (0.154)		
12歳時点：祖母フルタイム			0.0710 (0.138)		
3時点で：祖母無職				-0.279** (0.141)	
3時点で：祖母フルタイム					0.187 (0.150)
定数項	4.816** (2.302)	5.189** (2.270)	4.641** (2.220)	4.496** (2.200)	4.435** (2.199)
観測数	1,619	1,691	1,725	1,785	1,785

Standard errors in parentheses

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

付表2-5 記述統計

	観測数	平均値	標準偏差
実際のキャリアコース (base: 継続就業)			
退職復帰	4,218	0.39	0.49
現在無職	4,218	0.14	0.34
性別役割分業に賛成			
第一子出産1年後就労	4,656	0.52	0.50
第一子出産3年後就労	4,656	0.65	0.48
年齢			
年齢	4,393	40.16	6.88
夫年齢	2,672	42.05	7.46
本人学歴 (base: 中卒)			
: 高卒	4,149	0.39	0.49
: 専修/各種学校卒	4,149	0.15	0.36
: 短大/高専卒	4,149	0.23	0.42
: 四大卒以上	4,149	0.17	0.37
夫学歴 (base: 中卒)			
: 高卒	4,143	0.32	0.47
: 専修/各種学校卒	4,143	0.10	0.30
: 短大/高専卒	4,143	0.05	0.22
: 四大卒以上	4,143	0.30	0.46
その他	4,143	0.16	0.37
既婚	4,398	0.66	0.47
子どもの数	4,286	1.98	0.81
末子年齢	4,074	8.53	5.23
親: 同/近居	4,290	0.45	0.50
本人年収 (万円)	3,696	158.21	183.42
夫年収 (万円)	3,644	304.61	352.22
持ち家	4,656	0.58	0.49
住宅ローン	4,398	0.37	0.48
初職正社員	4,133	0.77	0.42
均等法施行以降就職	3,688	0.83	0.37
育休義務化以降出産	4,085	0.85	0.36
大企業	4,014	0.29	0.45
官庁	4,014	0.02	0.15
過去の状況			
父学歴 (base: 中卒)			
: 高卒	3,758	0.45	0.50
: 専修/各種学校卒	3,758	0.05	0.21
: 短大/高専卒	3,758	0.03	0.17
: 四大卒以上	3,758	0.19	0.39
兄弟数	4,301	2.49	0.88
長子	4,398	0.45	0.50
虐待経験	4,398	0.12	0.33
年齢 (第一子1歳)	4,019	29.26	4.93
既婚 (第一子1歳)	4,398	0.86	0.35
年齢 (第一子3歳)	4,019	31.26	4.93
既婚 (第一子3歳)	4,398	0.81	0.39
母親の年齢と祖母の就業状況			
3歳時点: 祖母無職	3,734	0.57	0.49
3歳時点: 祖母フルタイム	3,734	0.27	0.45
6歳時点: 祖母無職	3,922	0.43	0.50
6歳時点: 祖母フルタイム	3,922	0.32	0.47
12歳時点: 祖母無職	4,008	0.26	0.44
12歳時点: 祖母フルタイム	4,008	0.40	0.49
3時点で: 祖母無職	4,656	0.19	0.40
3時点で: 祖母フルタイム	4,656	0.20	0.40

*各推計において異なった変数を使用したため、それに応じてサンプルサイズも異なっている。なお、ここでの記述統計量は元のサンプルサイズで集計したものである。